

シグマ研究委員会核データ専門部会
ガンマ線生成核データ W. G. 昭和 57 年度第 8 回会合議事録

日 時 昭和 58 年 3 月 14 日 (月) 10:30 ~ 15:00
場 所 原研本部第 6 会議室
出席者 浅見 (哲), 水本, 五十嵐 (原研), 川合 (将), 肥田 (NAIG),
山越 (船研), 井頭, 播磨, 北沢 (東工大)

配布資料

- (1) ^{nat}Mo γ -線生度断面積評価 (水本)
- (2) データファイル作成コード GAMFIL の概要 (肥田)
- (3) (n, α) 反応に対する前平衡過程 (播磨)
- (4) $^{43}\text{Nb}(n, X\gamma)$ の計算 (川合)

議 事

- (1) ^{nat}Mo γ -線生成断面積の予備評価について報告された。1 MeV 以下では CASTHY の計算結果を採用した。この結果は、420 KeV における東工大の実験データと非常に良く一致している。また、thermal では Orphan のデータとの一致は不満足である。高いエネルギー領域では、Morgan and Newman のデータ (ORNL TM-5097 (1975)) を全面的に採用した。連続ガンマ線は Howerton の式で fit し、離散ガンマ線については実験データの平均を行った。
- (2) ガンマ線データ・ファイル作成コード GAMFIL の入力データ及び GAMFIL による外挿について説明があった。また、これを用いた ^{235}U のガンマ線核データのファイル化の例が示された。
- (3) (n, α) 反応における前平衡過程の寄与を評価するための K パラメータの励起関数及び放出粒子のスペクトルへの依存性が調べられた。
- (4) GNAISH 及び GROGI による $^{93}\text{Nb}(n, X\gamma)$ の計算が比較された。